

Simplex Technology, Inc.

We listed shares on
Tokyo Stock Exchange first section.
September 1, 2005

プロフィール

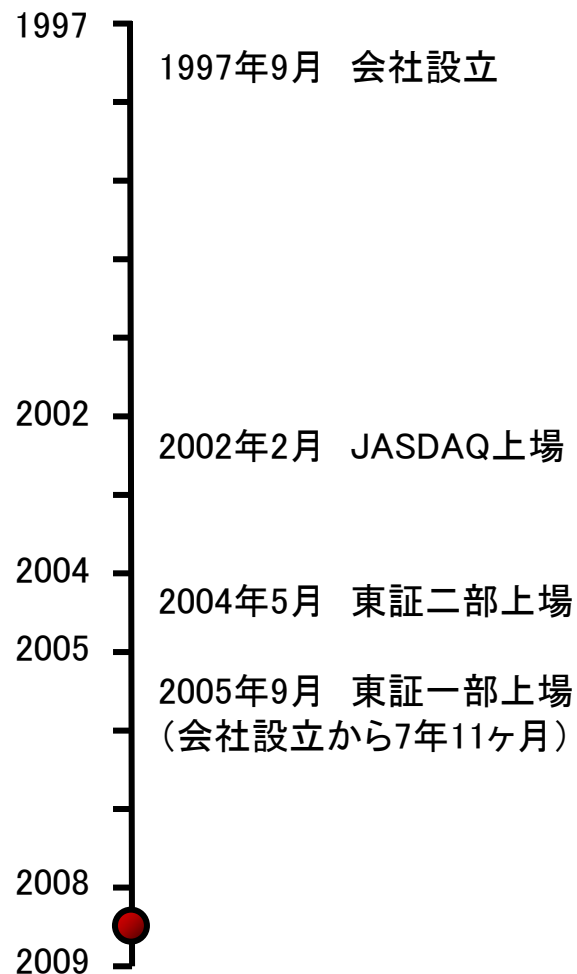


金子 英樹

(昭和38年生、45歳)

株式会社シンプレクス・テクノロジー
代表取締役社長

- アンダーセンコンサルティング
(現アクセンチュア)
金融機関向けシステムコンサルティング
- ソロモン・ブラザーズアジア証券
(現日興シティグループ証券)
トレーディング部門システム統括



1997年9月、日本の金融機関の再生を支える
“純国産・日本発”の金融ハイテクベンチャーを設立

シンプレクス・テクノロジーとは

金融業界・金融フロンティア領域に特化

最新の
金融工学

金融工学・金融業務知識・IT技術をすべて兼ね備える

金融
業務知識

高度な
IT技術



最先端金融ハイテクベンチャー

金融フロンティア領域とは; 金融機関が戦略的なIT投資によって収益向上を図ろうとする領域

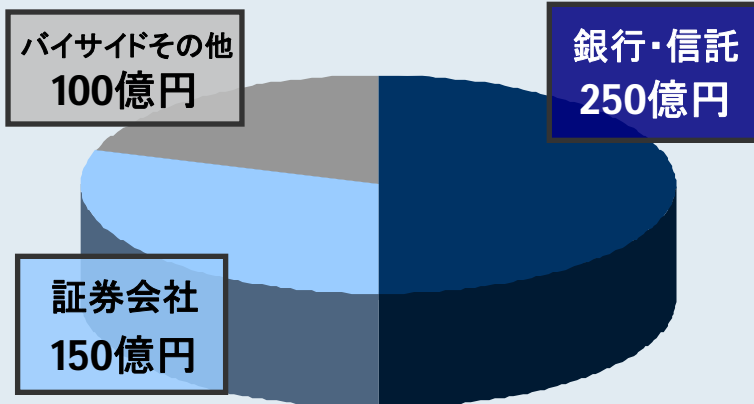
金融フロンティア領域について

金融フロンティア領域とは;

- ▶ 金融機関が戦略的なIT投資によって収益向上を図ろうとする領域
- ▶ 「金融ノウハウ」と「最先端IT」を融合した高度なシステムが求められる領域
- ▶ 参入障壁の高い領域

金融フロンティア領域の市場規模

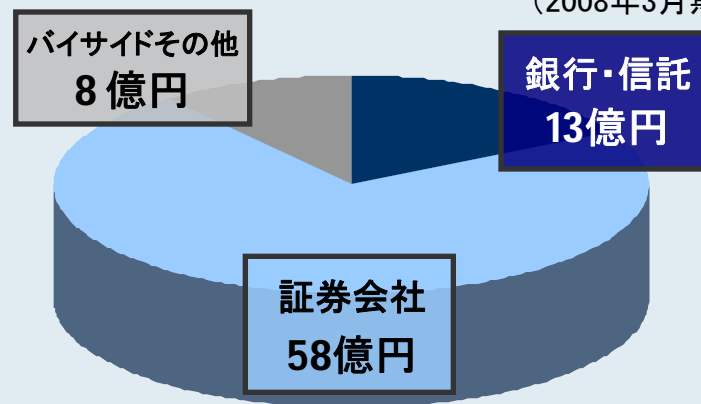
推定 **500** 億円



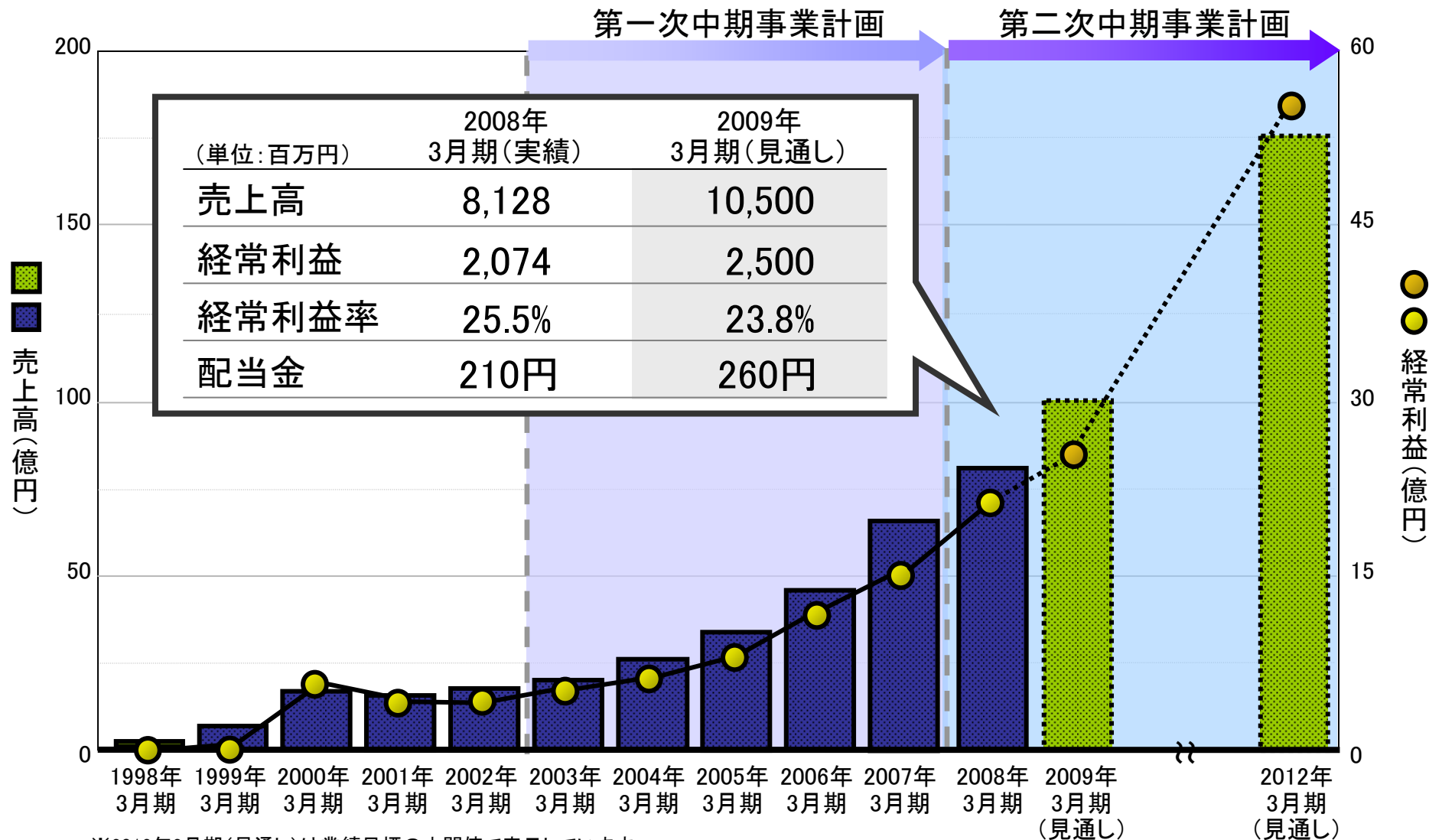
シンプレクスの顧客別売上構成比

売上高 **81** 億円

(2008年3月期)



売上高・経常利益の推移



※2012年3月期(見通し)は業績目標の中間値で表示しています

シンプレクス・テクノロジーの成長戦略

第1フェーズ

会社としての基盤整備

1998/3

2002/3

第2フェーズ

金融フロンティアにおける
SI事業領域のNo.1ベンダーへ※

2007/3

第3フェーズ

金融フロンティア領域の
ユニバーサルプレーヤーへ

2012/3

第2フェーズ 第一次中期事業計画 (2003/3~2007/3)

金融フロンティア領域No.1のシステム・インテグレータへ成長

2007年3月期 売上高67億、営業利益16億
売上利益共に第一次中期事業計画の目標達成を果たす

第3フェーズ 第二次中期事業計画 (2008/3~2012/3)

金融フロンティア領域のユニバーサルプレーヤーを目指す

2010年3月期目標 売上高100~120億、営業利益25~30億
2012年3月期目標 売上高150~200億、営業利益50~60億

※SI事業とはシステム・インテグレーション事業の略称です

第一次中期事業計画の総括

(2003年3月期～2007年3月期)

第一次中期事業計画(2003年3月期～2007年3月期)の概要

金融フロンティア領域におけるSI事業領域のNo.1ベンダーを目指す

- 5年間で売上高60～70億、営業利益15～20億を目指す
- 大手金融機関上位20社をメインターゲットとするSI事業(受託開発型ビジネス)に特化

SI事業 特徴1:一貫開発体制

- コンサルティングからシステム開発、運用・保守までを一貫して自社で担当
- 高品質・高コストパフォーマンスな金融システムを顧客へ提供

SI事業 特徴2:システム著作権の獲得

- 競合他社の持ち得ない「金融ノウハウ」と「最先端IT」が競争優位の源泉
- システムの付加価値を顧客に理解してもらうことで著作権を獲得することに成功※

コストパフォーマンスの高い一貫開発体制

お客様のIT投資ニーズ

Simplex
TECHNOLOGY, INC.

コンサルティング

システム開発

システム運用・保守

システム高度化に向けた提案

お客様の収益力最大化をフルサポート

+

システム著作権の獲得

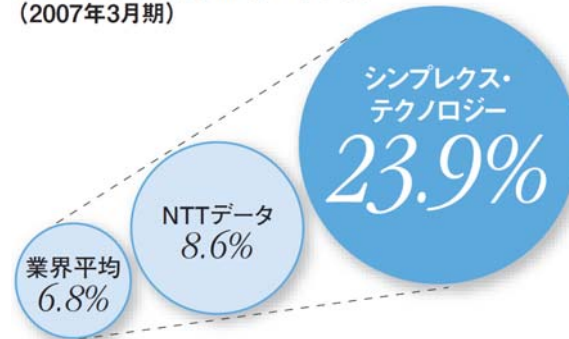
※一切の著作権を当社が保持することで再利用が可能となるシステム部品群のことを「シンプレクス・ライブラリ」と呼んでいます

第一次中期事業計画の総括

第一次中期事業計画の成果

金融フロンティア領域において
高利益率を誇るSI事業のNo.1
SIベンダーへ成長

売上高営業利益率の比較 ※
(2007年3月期)



※出典:「2007年版情報サービス産業基本統計調査」ならびに有価証券報告書等から当社作成

SI事業の問題点

- フロー型(売り切り型)ビジネスのため、収益基盤が不安定
- 利益率向上の限界
- 優秀な人材の大量確保が困難な状況が、成長のボトルネックに

第二次中期事業計画について

(2008年3月期～2012年3月期)

第二次中期事業計画(事業領域)

金融フロンティア領域

既存事業領域

SI 事業

システム・インテグレーション事業
受託開発型ビジネス

強み

「金融フロンティア領域」における
No.1システム・インテグレータ

2012年3月期まで15%程度の
年間平均成長率を持続

新規事業領域

UMS 事業

ユニバーサル・マーケット・サービス事業
サービス提供型ビジネス

強み

高利益率(売上総利益率60%)と
収益基盤の安定化を実現

2012年3月期にSI事業と同程度の
売上総利益達成を目指す

「安定性」と「成長性」の両立を実現

2012年3月期には両事業の売上総利益を30億円台に引き上げる
金融フロンティア領域のユニバーサル・プレーヤーへ

SI事業とは: システム・インテグレーション(System Integration)事業の略称です。
UMS事業とは: ユニバーサル・マーケット・サービス(Universal Market Service)事業の略称です。

UMS事業プロジェクト事例:「SPRINT」

UMS 事業
サービス提供型ビジネス

個人投資家向けインターネット取引システム「SPRINT(スプリント)」

- 多彩な注文機能と分析機能を搭載した個人投資家向けインターネット取引システム
- パソコンや携帯電話を利用して、豊富な金融商品を簡単・すばやく取引できる投資環境を実現

対応商品

- 株式(現物・信用)
- 先物・オプション
- 外国為替証拠金取引(FX)
- 債券

対応チャネル

- リッチクライアント版(パソコン)※
- リッチクライアント版(携帯電話)
- ウェブブラウザ版



導入実績(8社)

- 株式(現物・信用)/先物・オプション
オリックス証券様
ジョインベスト証券様
松井証券様
- 外国為替証拠金取引(FX)
ジョインベスト証券様
スター為替様
ソニー銀行様
マネックスFX様
マネーパートナーズ様
三菱商事フューチャーズ証券様
- 債券
オリックス証券様

※リッチクライアントとは、専用のソフトウェアをダウンロードすることで高い操作性・表現力・機能性を実現するアプリケーションの総称です。

UMS事業プロジェクト事例:「SPRINT」メイン画面

The screenshot displays the SPRINT main interface with the following components:

- Top Menu:** Includes options like '注文照会', '銘柄情報', '指数先物情報', 'マーケット情報', 'チャート', '設定', 'ウインドウ', and 'ヘルプ'.
- Left Panel (Watch List):** A table of stock prices for various sectors such as construction, industry, utilities, and technology. Columns include '銘柄名', '時刻', '現在値', '前日比', and '騰落率'.
- Center Panel (Daily Price List):** A table showing daily price movements for a specific stock, with columns for '日付', '始値', '高値', '安値', '終値', '前日比', and '出来高'. Below this is a candlestick chart.
- Right Panel (Order Book):** Displays order book data for selected stocks, including '現在値', '出来高', '売気配', and '買気配'.
- Bottom Panel (Market Indices):** A table comparing various market indices like TOPIX, Nikkei 300, and J-Stock, with columns for '単独比較', '現在値', '前日比', and '騰落率'.
- Bottom Status Bar:** Shows real-time market data including TOPIX values and percentage changes.

UMS事業プロジェクト事例:「SPRINT」主要機能



テクニカルチャート

[6202] エクスプレス注文

銘柄 9604 東証 取引パスワード

〇〇商事 △△工業 □□建設 ○○産業 ◇◇電波

取引	予約	数量/金額	トリガー設定	全呼値表示	本日の銘柄情報
新規(無期)	特定	数量指定 100株	設定 成行 -8	Tick	確認画面有 更新
現在値	売トリガー	売 0	売数量	買数量	買 0
2,330			最良件数		
前日比			成行		
45			2,375		
騰落率(%)			2,370		
-1.89%			2,365		
直近出来高			2,360		
286,600		119,800	2,355		
出来高		30,800	2,350		
6,669,000		165,900	2,345		
始値		149,100	2,340		
2,360		50,800	2,335		
高値			2,330		
2,370			2,325	141,200	
安値			2,320	161,500	
2,340			2,315	120,700	
VWAP			2,310	110,400	
2,338.94			2,305	44,600	
値幅上限			2,300		
2,730			2,295		
値幅下限			2,290		
1,930			2,285		
売買単位			2,280		
100					
区分	現物	買建(半年)	買建(無期)	売建(半年)	売建(無期)
特定	0	0	0	0	0
一般	0	0	0	0	0

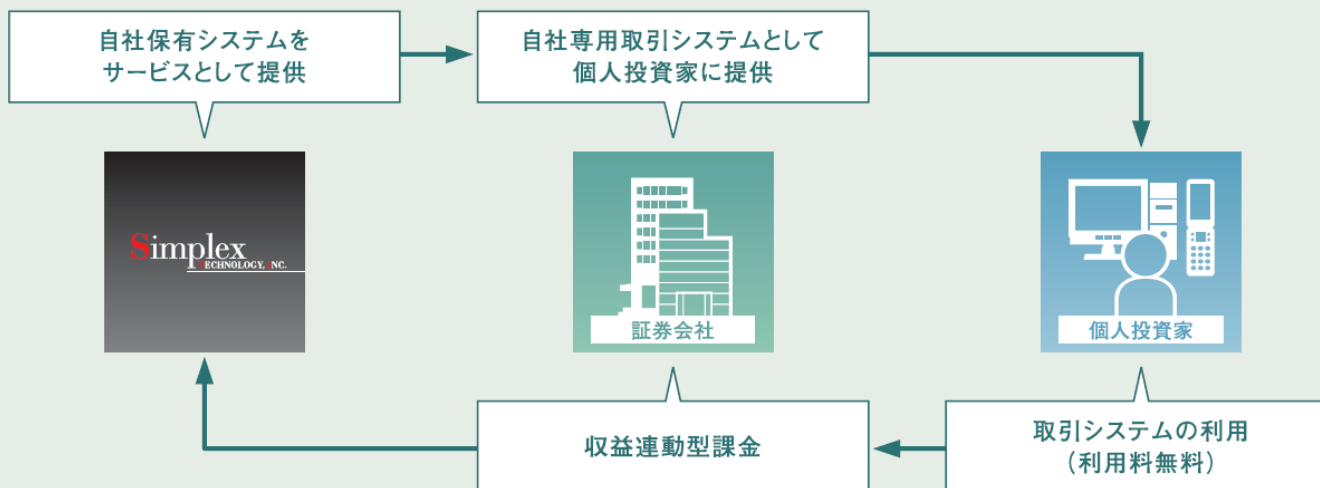
一括取消 一括取消 一括取消 一括取消

注文取消

スピード注文

UMS事業の特徴

「SPRINT」からみたUMS事業ビジネスモデル

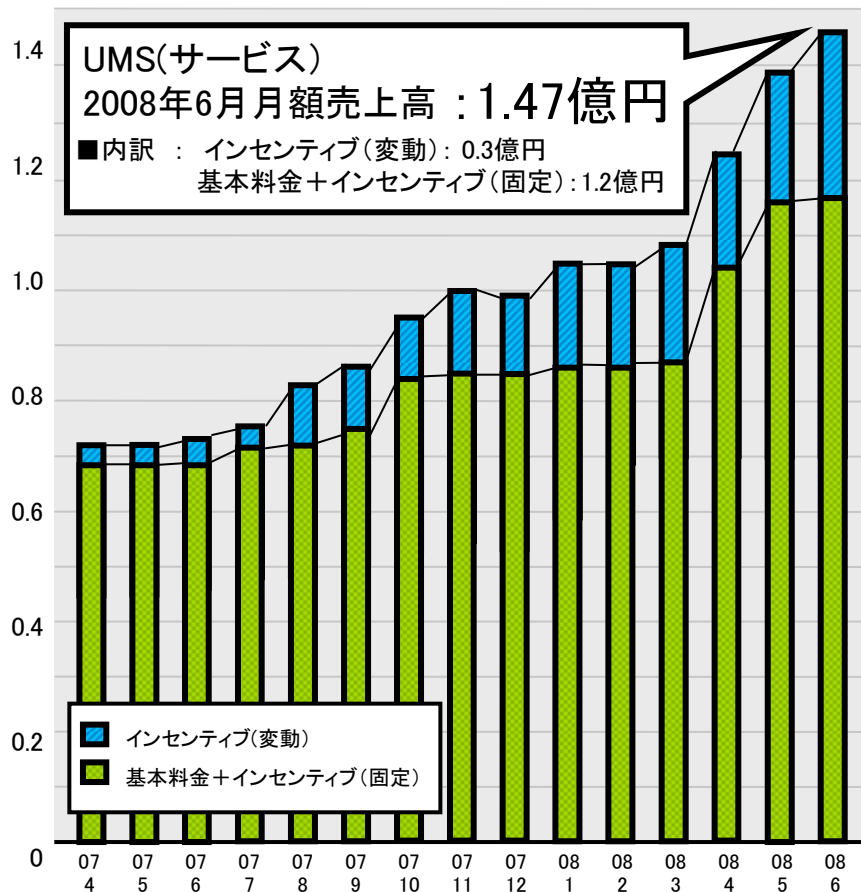


UMS 特徴⇒高利益率(売上総利益率60%)と継続的な安定収益の実現

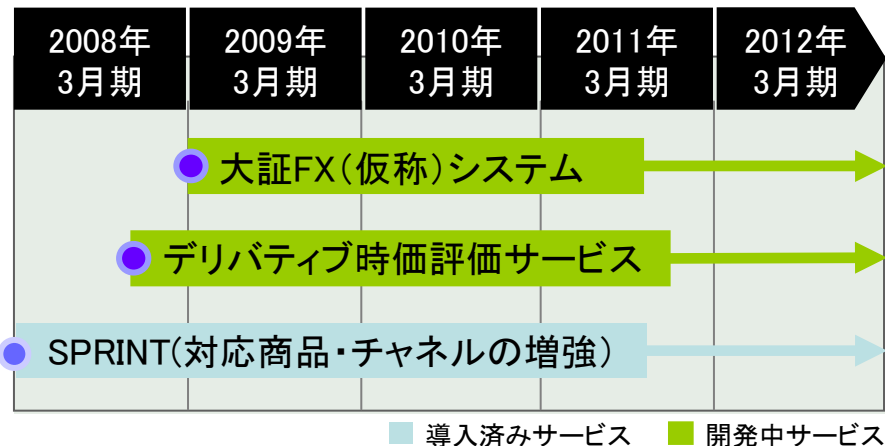
- 顧客収益と当社収益が連動するビジネスモデルを採用
- 自社保有システムをサービスとして継続的に顧客に提供
- サービスを提供するための“先行投資”が不可欠

UMS事業の進捗状況

■ UMS(サービス)月額売上高の推移



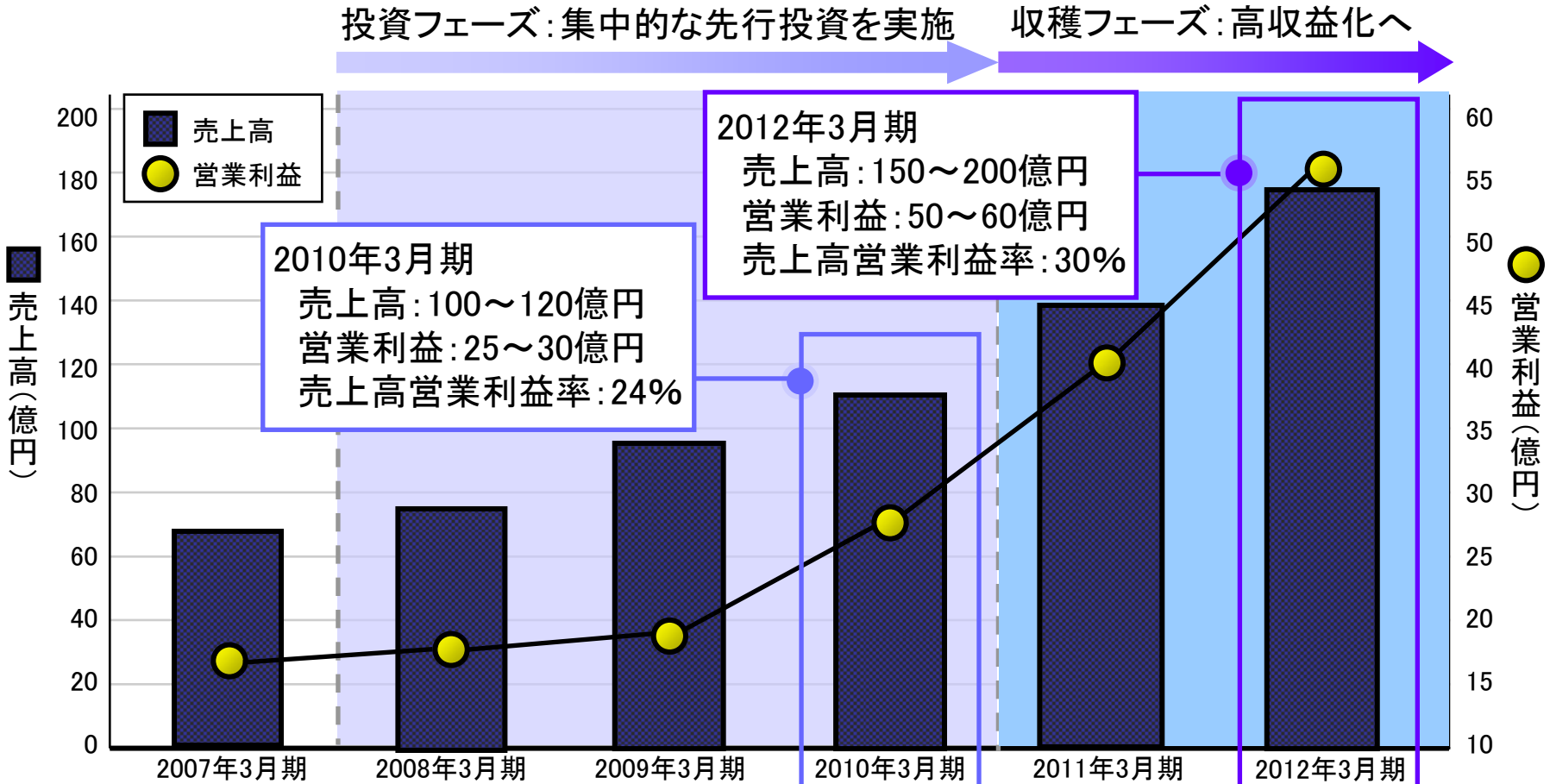
■ UMS(サービス)進捗状況



	2008年 3月期(実績)	2009年 3月期(予想)	2012年 3月期(計画)
売上高	11億円	20億円	50~60億円
売上総利益	6億円	11億円	30億円台
売上総利益率	56%	55%	50~60%

2009年3月期のUMS(サービス)売上高が20億円(前期比80%増)に拡大することで
第二次中期事業計画の最終年度売上高目標の1/3にまで積み上がる

第二次中期事業計画 概要



2010年3月期、2012年3月期の売上高・営業利益については
上限値を目標、下限値を株主の皆様に対する公約・責務(コミットメント)とする

ホームページのご紹介

English

Simplex Technology, Inc is a leading provider of mission-critical system solutions for financial trading application, platform, and analytics.

検索

ソリューション 投資家向け情報 採用情報 会社情報 ニュース

製品に関するお問い合わせ
IRに関するお問い合わせ
その他のお問い合わせ
MP 本社へのアクセス

イベント

2008年9月3日(水)
個人投資家向け会社説明会(札幌)
札幌すみれホテル
詳細はこちら

過去のイベント一覧

動画配信

第二期中期経営計画について

Simplex Technology, Inc.
We listed shares on
Tokyo Stock Exchange first section.
September 1, 2005

当社のホームページでは株主・投資家のみなさまの利便性や情報提供の即時性を考慮し、最新のリリースや財務情報、決算公告、その他IR関連の資料掲載、IRブログを掲載しております。是非ご覧下さい。

<http://www.simplex-tech.co.jp/>

本資料に掲載されている当社の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しとなります。現在入手可能な情報から得られた当社の経営判断に基づくものであり、リスクや不確実性を含んでおり、実際の業績は、当社の見通しと異なる可能性があります。また、本資料は投資勧誘を目的としたものではなく、銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。